

子ども若者白書(2013年度)によると、「自分自身に満足している」と答えた割合が先進7ヶ国の中で日本は最下位でした。(日本45・8%、他国は約80%)

『どうして日本の子どもたちは自尊心が低いのでしょうか?』子どもに対して「やる気あるの」「ちゃんとして」「だからダメなの」とか否定的な言葉。結果にかかわらず一生懸命したことをほめ、認めることが少ないこと。生まれてきて一緒に生きていることに感謝し、子どもの今のそのままと認めるという観念が薄いこと。にあるのでは・・・。

『自尊心が高い人と低い人』 自尊心

が高い人は何事にも積極的に取り組み、成功体験を積み重ね自信がつき、そんな自分を受け入れ大切にしてくれるだけでなく、他者への思いやりを持つことができ人になります。一方、低い人は自信がもてず物事に取り組む前から「無理」と断念したり、失敗を周囲の人や社会のせいにしてします。

『自尊心を育むには』

人権の眼 No.51 自尊心を育む

淡路市学校保健会長、とみもと小児科院長

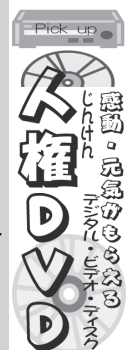
富本 康仁

「この子は悪いことばかりして、ほめるとこないわ」と言われるお母さんがおられますが、その場合はほめてあげられる場面や機会を仕組む必要があります。簡単にできるお手伝いを用意するとよいでしょう。

その際、ほめるタイミング(好ましい行動には3秒以内にほめる)を逃さぬよう、日頃からほめ言葉(頑張ったね、カッコいい、さすが)やほめしぐさ(抱きしめる、ハイタッチ、握手)を反射的に出せるように準備しておく必要があります。

100%できるまで待たず25%できたところではめるとよいでしょう。親の肯定的な態度やほめ言葉のシャワーは子どもの心の栄養となり、健全な自我形成に繋がります。自尊心が育まれます。

あした咲く



「女性の人権」とともに輝ける社会をめざして

【企画のねらい】

「女性が輝く社会」の実現に向けて、平成27年8月の「女性活躍推進法」成立をはじめ、これまで様々な取組が進められてきました。

しかし、現状は、職場や地域における女性の能力発揮のための環境整備や意識改革は必ずしも十分ではなく、また、女性の家事、育児、介護における負担も多い状況にあります。さらに、ドメスティック・バイオレンス(言葉の暴力を含む)やハラスメントなどの女性に対する人権侵害も生じています。これらの問題は、女性が輝いて生きるための大きな障壁となっています。

この作品には、生き方の異なる姉妹が登場します。独身会社員の妹・茜と、専業主婦の姉・翠。それぞれの立場ゆえの悩みや葛藤を抱えています。姉妹での対立や、父との対話、そして、地域の人々とのふれあいを通して、別の視点や価値観に気づきます。

「幸せ」の形は、十人十色です。自分で自分の生き方を選択し、女性はもちろん全ての人が「自分の花」をイキイキと咲かせることのできる、多様性尊重社会の実現をめざすきっかけとなる人権啓発ドラマです。



兵庫県人権啓発ビデオ

■ DVD 本編 36分 2017年度作品

【問い合わせ先】

淡路市市民生活部人権推進課

TEL: 0799-64-2521

FAX: 0799-64-2565

●へんしゅうかい

マイノリティ(少数派)への差別・偏見の意識は、マジョリテイ(多数派)から発信されるといわれています。過日に邑久光明園(岡山県)で淡路市出身のハンセン病回復者の方に会いにきました。

瀬戸内の小島の真言宗の寺守りをされ、87歳の高齢ですが、元気でした。ここに来た苦労や、家族との別れ、今どう感じて生きておられるのかお聞きしました。

(縄文人)

第50号のクイズの当選者は次の20名です。図書カードをお送りします。(敬称略)

木村明弘(中田)池田照子(志筑)空康弘(木曾下)野上勝尚(佐野)中谷正明(志筑)中濱瑞希(浦)杉岡清治(浦)山吹ひろ子(飯屋)羽谷信正(久留麻)島脇ふさ子(久留麻)藤岡高藏(岩屋)福島文(岩屋)中野ひとみ(岩屋)漁洋子(室津)高田由紀子(室津)山崎高志(高山)左官千宙(上河合)都志美知子(尾崎)伊藤喜美子(尾崎)坂口奈桜(奈良市)

※正解は「50号(こじゅうごう)」。応募総数は103通でした。当選おめでとうございます。